

本資料のうち、枠囲みの内容は、
営業秘密または防護上の観点から
公開できません。

東海第二発電所 工事計画審査資料	
資料番号	工認-233 改0
提出年月日	平成30年4月19日

V-3-3-4-1-1 原子炉隔離時冷却系ポンプの強度計算書

まえがき

本計算書は、添付書類「V-3-1-6 重大事故等クラス2機器及び重大事故等クラス2支持構造物の強度計算の基本方針」及び「V-3-2-9 重大事故等クラス2ポンプの強度計算方法」に基づいて計算を行う。

なお、適用規格の選定結果について以下に示す。適用規格の選定に当たって使用する記号及び略語については、添付書類「V-3-2-1 強度計算方法の概要」に定義したものを使用する。

・評価条件整理表

機器名	既設 or 新設	施設時の 技術基準 に 対象と する施設 の規定が あるか	クラスアップするか				条件アップするか				既工認 に おける 評価結 果 の有無	施設時 の 適用規 格	評価区分	同等 性 評価 区分	評価 クラス	
			クラス アップ の有無	施設時 機器 クラス	DB クラス	SA クラス	条件 アップ の有無	DB条件		SA条件						
								圧力 (MPa)	温度 (°C)	圧力 (MPa)						温度 (°C)
原子炉隔離時冷却系 ポンプ	既設	無	—	—	DB-2	SA-2	—	10.34	60	10.34	106	—	—	設計・ 建設規格	—	SA-2

目次

1. 計算条件	1
1.1 ポンプ形式	1
1.2 計算部位	1
1.3 設計条件	2
2. 強度計算	2
2.1 ケーシングの厚さ	2
2.2 ケーシングの吸込みおよび吐出口部分の厚さ	2
2.3 ケーシングのボルト穴	3
2.4 ケーシングカバーの厚さ	3
2.5 ボルトの平均引張応力	4
2.6 耐圧部分等のうち管台に係るものの厚さ	5
2.7 設計・建設規格における材料の規定によらない場合の評価	6

1. 計算条件

1.1 ポンプ形式

ターボポンプであって、ケーシングが軸垂直割りで軸対称であるものに相当する。

1.2 計算部位

概要図に強度計算箇所を示す。

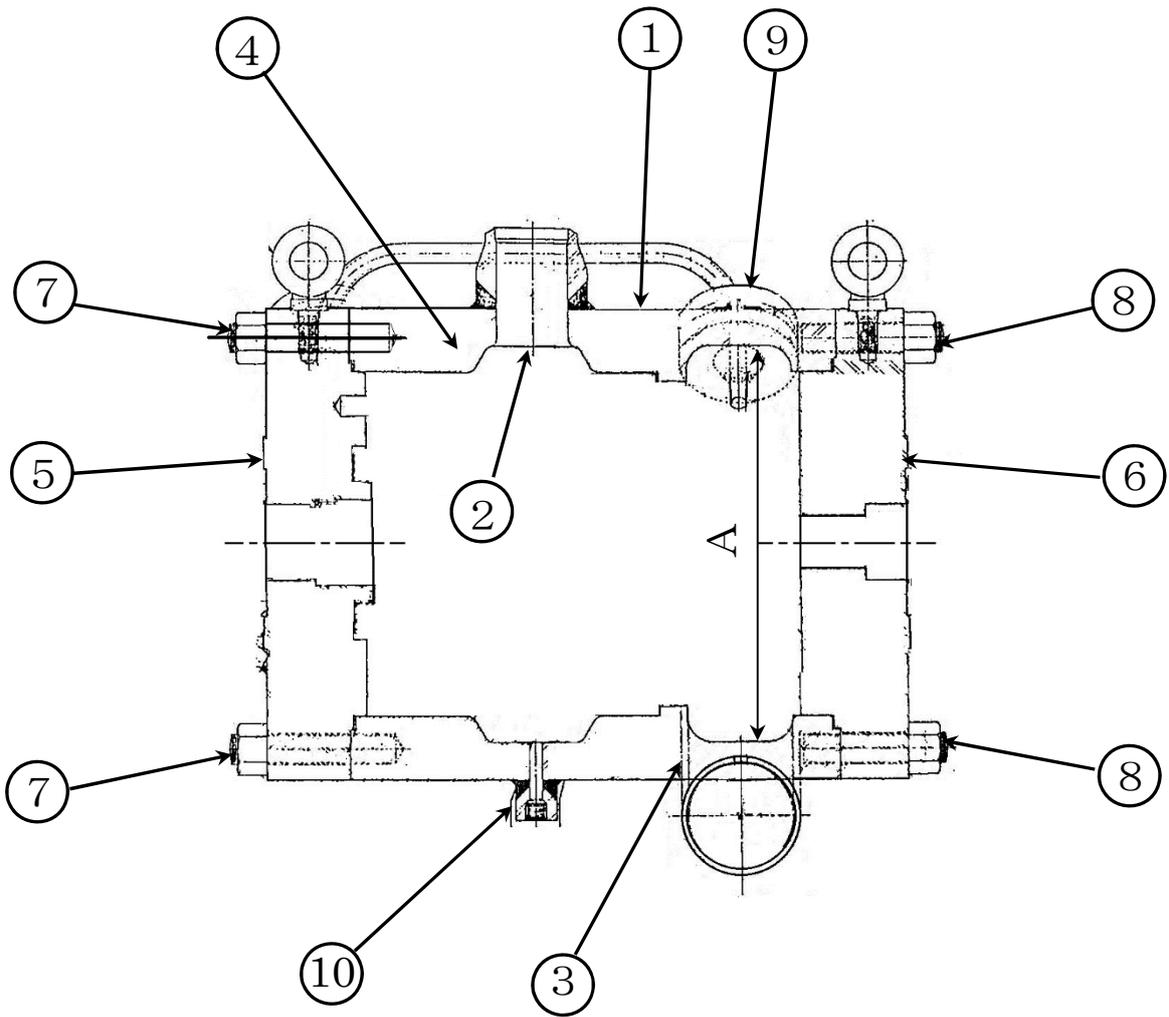


図 1-1 概要図

1.3 設計条件

設計条件	吐出側	吸込側
最高使用圧力 (MPa)	10.34	1.17
最高使用温度 (°C)	106	106

2. 強度計算

2.1 ケーシングの厚さ

設計・建設規格 PMC-3320

計算部位	材料	P (MPa)	S (MPa)	A (mm)
①		10.34	120*	

*: 材料の許容引張応力は、と同等と考え、の値を使用する。

t (mm)	t _{so} (mm)	t _s (mm)
24.7		

評価: $t_s \geq t$, よって十分である。

2.2 ケーシングの吸込みおよび吐出口部分の厚さ

設計・建設規格 PMC-3330

(単位: mm)

計算部位	r _i	r _m	ℓ	t	t _{ℓo}	t _ℓ
②		78.4	22.0	24.7		
③		78.4	22.0	24.7		

評価: $t_{ℓ} \geq t$, よって十分である。

2.3 ケーシングのボルト穴

設計・建設規格 PMC-3340

(単位：mm)

計算部位	d_{bm}	a	a_{so}	a_s	X	X_{os}	X_s
④		80.8			24.7		

評価： $a_s \geq a$ ，よって十分である。

評価： $X_s \geq X$ ，よって十分である。

2.4 ケーシングカバーの厚さ

設計・建設規格 PMC-3410

計算部位	材料	P (MPa)	S (MPa)	平板形	
				d (mm)	K
⑤		10.34	120*		
⑥		10.34	120*		

*：材料の許容引張応力は、と同等と考え、の値を使用する。

t (mm)	t_{so} (mm)	t_s (mm)
85.0		
49.0		

評価： $t_s > t$ ，よって十分である。

2.5 ボルトの平均引張応力

設計・建設規格 PMC-3510

計算部位	材料	P (MPa)	S _b (MPa)	d _b (mm)	n	A _b (mm ²)
⑦		10.34	173			
⑧		10.34	173			

ガスケット材料	ガスケット厚さ (mm)	ガスケット 座面形状	G _s (mm)	G (mm)	D _g (mm)
渦巻形金属ガスケット (非石綿) (ステンレス鋼)	4.5	はめ込み形			—
渦巻形金属ガスケット (非石綿) (ステンレス鋼)	4.5	はめ込み形			—

H (N)	H _p (N)	W _{m1} (N)	W _{m2} (N)	W (N)	σ (MPa)
					144
					141

評価：σ ≤ S_b，よって十分である。

2.6 耐圧部分等のうち管台に係るものの厚さ

設計・建設規格 PMC-3610

計算部位	材料	P (MPa)	S (MPa)	D _o (mm)
⑨		10.34	120*	
⑩		10.34	120*	

* : 材料の許容引張応力は、
と同等と考え、
の値を使用する。

継手の種類	放射線透過試験の有無	η
継手無し	—————	1.00
継手無し	—————	1.00

t (mm)	t _{so} (mm)	t _s (mm)
1.9		
2.2		

評価 : $t_s \geq t$, よって十分である。

2.6 耐圧部分等のうち管台に係るものの厚さ

ケーシングおよびケーシングカバー（使用材料規格：）の

評価結果

（比較材料：）

(1) 機械的強度

	引張強さ	降伏点又は耐力	比較結果
使用材料	490～640 MPa	245 MPa以上	引張強さの範囲及び降伏点は同等である。
比較材料	490～640 MPa	245 MPa以上	

(2) 化学的成分

	化学成分 (%)									
	C	Si	Mn	P	S	Cu	Ni	Cr	Mo	V
使用材料	0.35 以下	0.35 以下	0.40 ～ 1.10	0.030 以下	0.030 以下	—	—	—	—	—
比較材料	0.30 以下	0.35 以下	0.70 ～ 1.35	0.030 以下	0.030 以下	—	—	—	—	—
比較結果	<p>C, Mnの成分規定に差異があるが、以下により、本設備の環境下での使用は問題ないと考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ (1) の評価結果からも機械的強度は同等である。 <p>C：成分が多いほど溶接性、じん性、応力腐食割れに対する耐食性が低下するものであるが、その差異は少なく、問題ない。</p> <p>Mn：比較材料に比べ成分量が少なく、じん性に影響を与えられられる。しかし、当該ポンプは原子炉建屋内に設置されるポンプであり、温度管理される設置場所であるため靱性が必要となる低温環境とならず問題ない。</p>									

(3) 評価結果

(1)(2)の評価により、機械的強度、化学成分、いずれにおいても比較材料と同等であることを確認したため、本設備において、の許容引張応力をとして使用することに問題ないと考える。